

結果概要

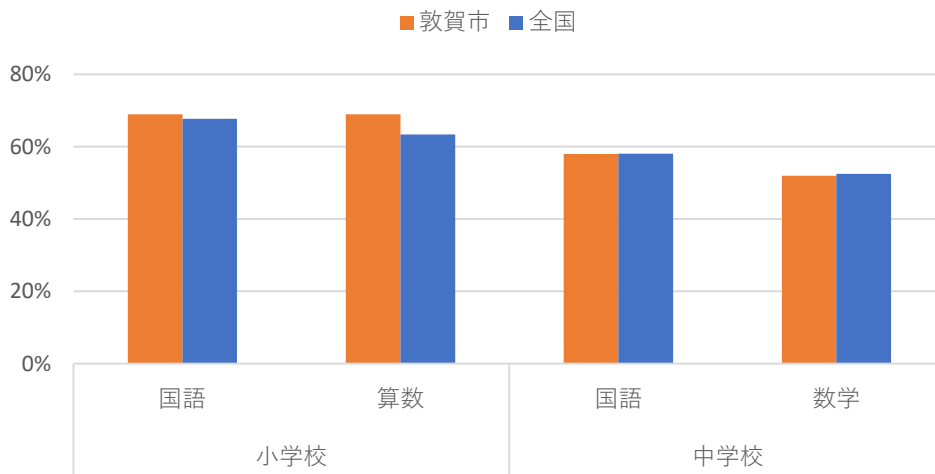
敦賀市教育委員会では、平成28年4月より全市的に「小中一貫教育」を進め、小・中学校の先生方が「つながり」を意識し、学びの「つまずき」をなくすための授業づくりに取り組んできました。家庭・地域の皆様のご協力もいただき、本市の子どもたちは着実に力をつけてきています。今年度の調査結果についてお知らせします。

知

教科に関する調査の結果

本市と全国の平均正答率(%)

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
敦賀市	69	69	58	52
全国	67.7	63.4	58.1	52.5



小学6年生は、2教科とも平均正答率で全国平均を上回りました。中学3年生は、全国平均とほぼ同じ結果となりました。

- ・令和6年4月18日実施
- ・小学6年生 国語・算数
- ・中学3年生 国語・数学

[調査問題はこちら](#)

【全国学力・学習状況調査について】

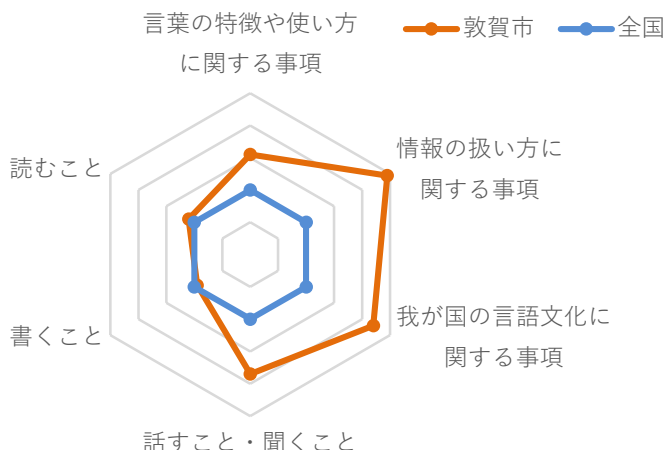
児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として、小学6年生・中学3年生を対象に実施されています。

本調査の結果は、学校における教育活動の一側面ではありますが、この結果を今後の授業改善に生かしていきたいと思っております。

学習指導要領の内容別の結果(本市と全国)

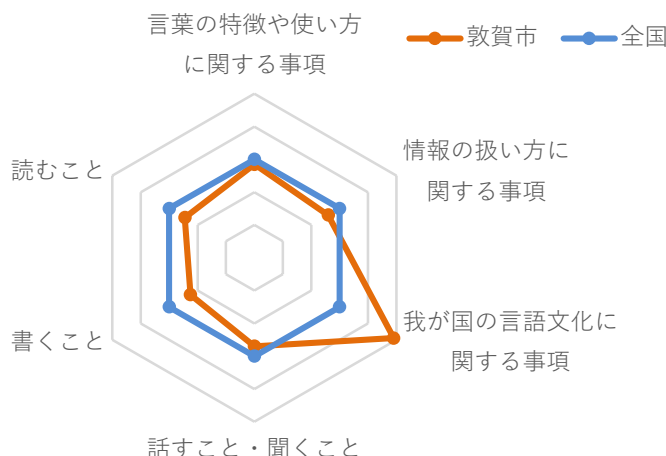
小学校

学習指導要領の内容		敦賀市	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	51.1	50
	情報の扱い方に関する事項	52.9	50
	我が国の言語文化に関する事項	52.4	50
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	51.7	50
	書くこと	49.9	50
	読むこと	50.2	50



中学校

学習指導要領の内容		敦賀市	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	49.7	50
	情報の扱い方に関する事項	49.2	50
	我が国の言語文化に関する事項	53.8	50
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	49.4	50
	書くこと	48.5	50
	読むこと	48.9	50



※全国の領域別平均正答率(%)を50として敦賀市の値を算出

- ・小学校は、ほぼすべての面で全国平均を上回っています。特に、小学校では、知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」について、中学校では、知識及び技能の「我が国の言語文化に関する事項」について敦賀市の子どもたちが力をつけていることが分かります。
- ・小中学校ともに、「思考力、判断力、表現力等」に関して、全国平均をわずかに下回りました。

○良好であること ●課題であること (設問別)

【小学校国語】

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと 【2ー(2)】
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること 【3三】 (次頁参照)
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと 【2三(ア)】 (次頁参照)

【中学校国語】

- 行書の特徴を理解していること 【4三】 (次頁参照)
- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解していること 【2二】
- 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること 【2一】 (次頁参照)

〈良好〉

小学校

中学校

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること【3三】

○行書の特徴を理解していること【4三】

- 〈条件〉
- 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
- 【物語】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

三 原さんは、島さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（読者の目線）

原さん 私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、①を示しながら「わしみたいな夕モが、生きるために食べているのはじとまっやめたところが心に残ったんだ。」

島さん なぜ、そこが心に残ったの。

原さん この言葉にオニグモじいさんの思いが表れていると思ったからなんだ。②を示しながら「笑む目を見つめながら、いっしょにうけることあるよな。」

ハエの女の子のすなおな顔を見て、自分がハエの女の子を食べる存在であることに、じいさんのように話さなくていいのではないかな。

原さん そうか、それで結局、オニグモじいさんは、③を示しながら「わしが食べて生きてるのはな、朝日のひかりだよ。」と、④を示しながら「わしがはっさりしてきたよ。島さんは、じいさんに残ったの。」

原さん そうだね。物語のいろいろなところを結びつけて考えよう。心に残った理由が思いついたら、もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

【正答例】
 オニグモじいさんが、ハエの女の子に、自分が食べているのは朝日のひかりだと話したところが心に残りました。その理由は、すなおな女の子をおどろかせず、安全に帰ろうとするやさしさが表れていると思ったからです。(100字)

【正答】 1
 78.0%

三 田中さんは、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。次の⑦から⑩までの部分の書き方について説明したものととして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものととして適切なものを選択する
 正答率 81.4%

【正答】 1

〈課題〉

小学校

中学校

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと【2三(ア)】

●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること【2一】

高山さんの文章の下線部アを漢字を使って書き直す

(問) 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていった。部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

競と解答しているが、技と解答していないもの 約20%が回答
 競と解答していないが、技と解答しているもの 約10%が回答

【正答】 競技

【解答のポイント】

- ★漢字の音訓や部首の意味を考える
- ★文や文章の中で果たす漢字の意味を捉える

正答率 38.2%

本文中の図の役割を説明したものととして適切なものを選択する

(問) 「図」さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものととして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- ① 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう補助する役割。
- ② 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- ③ 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- ④ 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

★解答のポイント
 それぞれの部分とどの部分とが関連しているのかを確認
 ↓
 書き手の伝えたい内容をより正確に読み取る
 ・その結果どのような効果が生まれているのかを考える

【正答】 1, 2

正答率 28.2%

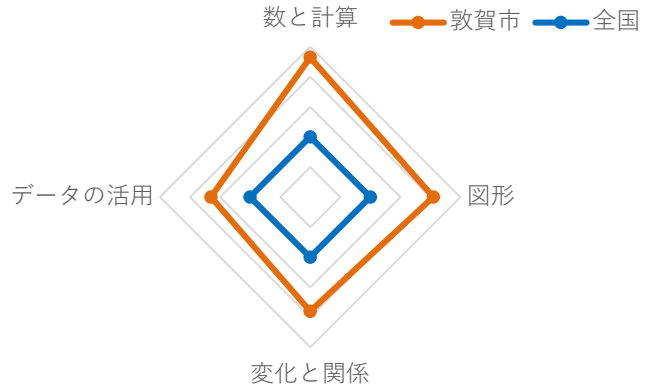
小中学校ともに、記述式問題における平均正答率の割合は、小学校で全国比+2.6%、中学校で同比+0.4%でした。学校生活のあらゆる場面において、「書く」ことを大切にしてきた成果が表れていると考えられます。

一方、課題である「思考力・判断力・表現力」をつけていくために、「根拠となる表現を押さえながら、文章の内容について正しく読み取ること」「文章の内容について自らの考えを整理し、筋道を立てて話すこと」「自分の考えを整理し、目的に合った文章を明確に書くこと」などに取り組む授業を継続していきます。

学習指導要領の領域別の結果(本市と全国)

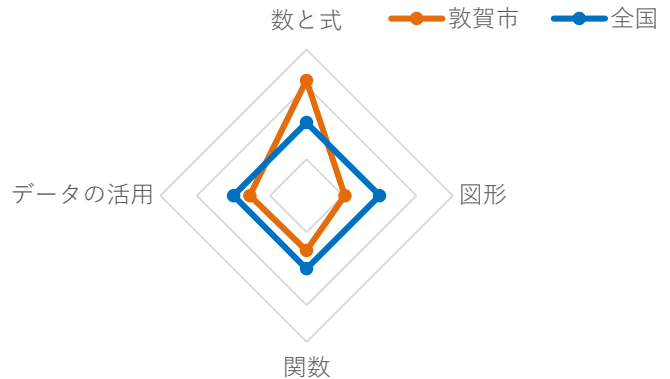
小学校

学習指導要領の領域	敦賀市	全国
数と計算	55.3	50
図形	54.2	50
変化と関係	53.6	50
データの活用	52.6	50



中学校

学習指導要領の領域	敦賀市	全国
数と式	52.3	50
図形	48.1	50
関数	49.0	50
データの活用	49.1	50



※全国の領域別平均正答率(%)を50として敦賀市の値を算出

- ・小学校では、すべての領域で全国平均を上回っています。特に、「数と計算」、「図形」の領域において、全国を大きく上回る結果となっています。
- ・中学校では、「数と式」の領域において、全国平均を上回る結果となっています。「図形」と「データの活用」「関数」において、全国平均をわずかに下回りました。
- ・小中学校ともに、記述式問題における正答率が全国平均を上回っています。算数・数学の言葉を使って、「表現する」ことを大切にしてきた成果が表れていると考えられます。

○良好であること ●課題であること (設問別)

【小学校算数】

- 数量の関係を、□を用いた式に表すこと【1(2)】
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること【5(1)】(次頁参照)
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること【4(3)】(次頁参照)

【中学校数学】

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること【6(1)】(次頁参照)
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること【8(2)】(次頁参照)
- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと【1】

〈良好〉

小学校

○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること【5(1)】

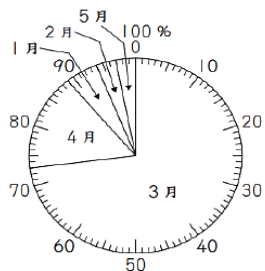
円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く **正答率 86.2%**

こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5~6輪以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(1) 全国各地の観測地のデータを調べたところ、地域によって桜の開花日がちがうことがわかりました。

下の円グラフは、2023年の開花日について、月別に整理し、その割合を表したものです。「4月」の割合は、全体の何%ですか。答えを書きましょう。

開花日の月別の割合(2023年)



【正答】16

【解答のポイント】

★円グラフの目盛りを正しく捉え、目盛りを数えたり読みだりして、「4月」の割合を求め

中学校

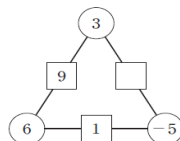
○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること【6(1)】

正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れたとき、その和である□に入る整数を求め

正答率 89.1%

6 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。

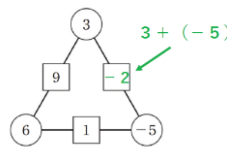


【正答】-2

【解答のポイント】

★具体的な数で計算することを通して、与えられた問題場面における考察の対象を捉える

→ 3、6、-5のような具体的な整数を正三角形の三つの○に1つずつ入れ、三つの□に入る整数をそれぞれ求める

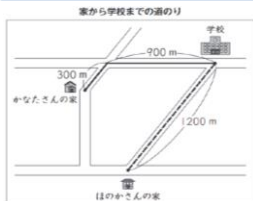


〈課題〉

小学校

●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること【4(3)】

家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く **正答率 38.2%**



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。① かなたさん ② ほのかさん

1を選んだ人:

約30%が「2人の歩いた道のりが等しいこと」のみを回答

【正答例】(番号)1

(わけ)かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんの方が短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんの方が速いです。

【解答のポイント】

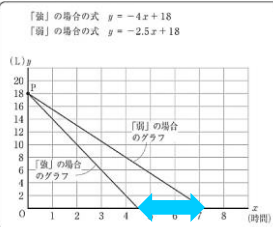
★2人のかかった時間にも着目する

中学校

●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること【8(2)】

18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する **正答率 18.8%**

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

使用時間の違い=Xの値の差

アを選んだ人: 約10%が無回答

イを選んだ人: 約10%が「グラフを用いること」のみを回答

【正答例】

(アを選択した場合)

・「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y=0$ を代入し、 x の値の差を求める。

(イを選択した場合)

・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める。

数と計算(式)分野の平均正答率の割合は、小学校で全国比+7.0%、中学校で同比+2.3%でした。このことから、基礎的・基本的な計算は身につけていると考えられます。

一方、図形分野においては、「図形の移動の性質を見いだすこと」や「筋道を立てて考え、証明すること」に課題が見られます。

今後は、デジタル教材を効果的に活用することで、問題文と図形の対応について検討し、理解を深める学習活動をさらに充実させていきます。

〈良好〉

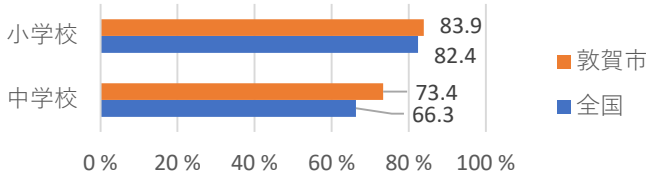
※1 各グラフの値は、肯定的な回答の割合を表しています

※2 ウェルビーイング…

身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味し、直訳すると「幸福」「健康」という意味があります

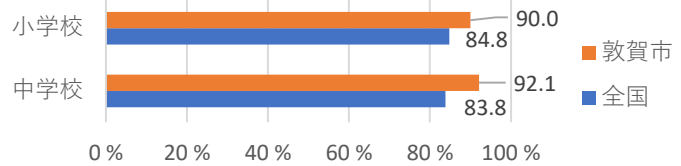
夢や目標

〈将来の夢や目標を持っていますか〉



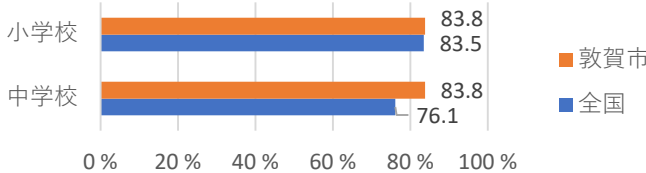
ウェルビーイング※2

〈学校に行くのは楽しいと思えますか〉



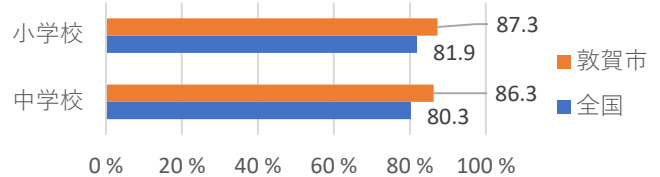
地域や社会との関わり

〈地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか〉



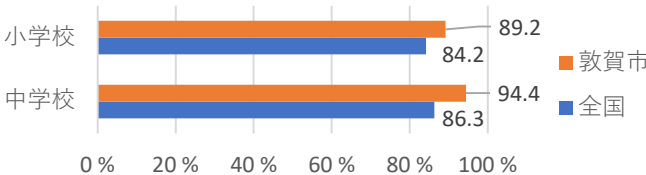
授業における主体的な学び

〈前の学年までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか〉



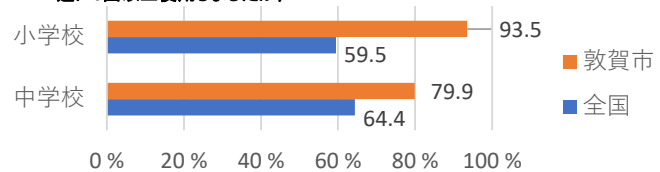
自他を思いやる学級づくり

〈あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか〉



ICTの活用

〈前の学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用しましたか〉



敦賀市の子どもたちは、他者に対する思いやりや地域・社会に貢献したいという気持ちが十分に育っていることがうかがえます。

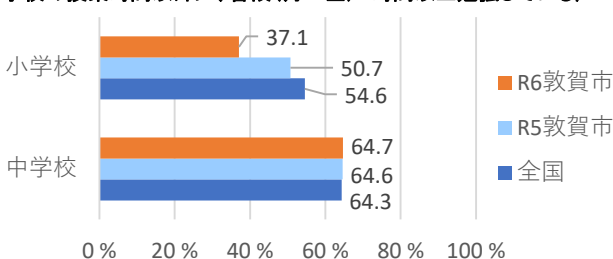
また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して、肯定的な回答をしている割合は、小学校92.0%(全国比+2.1%)、中学校95.6%(同比+5.2%)、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という質問についても全国平均より高いことから、学校に対する安心感が「学校に行くことが楽しい」という気持ちにつながっていると考えられます。

変化の激しい社会を生きていく上で、他者と関わりながら幸福を実感できる人生を歩んでいけるよう、今後も家庭・学校・地域が一体となって見守り、支えていきます。

〈課題〉

学習習慣

〈学校の授業時間以外に、普段(月～金)1時間以上勉強している〉



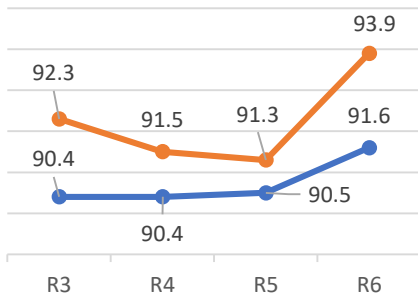
「授業時間以外に1時間以上学習している」と回答した割合は、小学校37.1%(全国比-17.5%)とかなり低いことが分かりました。

一方で、ICTの活用を通して、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「楽しみながら学習を進めることができる」と肯定的な回答した割合は、小中学校ともに90%以上を占めています。

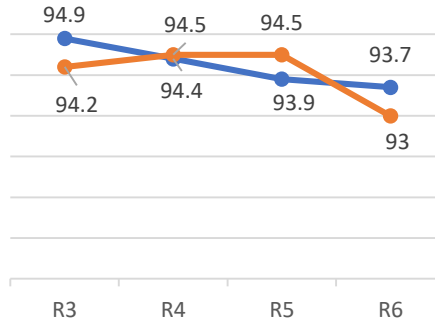
今後は、家庭での学習習慣が身につくよう、タブレット端末を活用した課題を出したり、児童生徒の主体的な学びにつながる内容に取り組みせたりする等の工夫をしていきます。

生活習慣【小学校】

〈毎日同じくらいの時刻に起きている〉

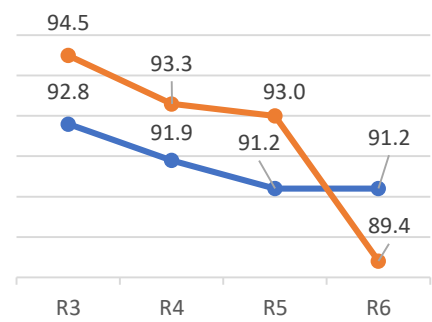


〈毎日朝食を食べている〉



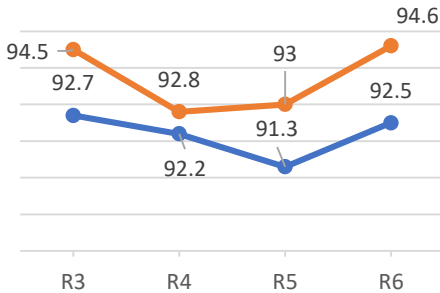
—○— 敦賀市 —●— 全国

〈毎日同じくらいの時刻に寝ている〉

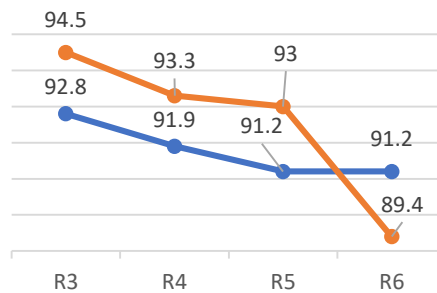


生活習慣【中学校】

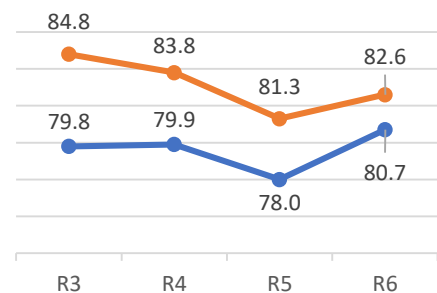
〈毎日同じくらいの時刻に起きている〉



〈毎日朝食を食べている〉

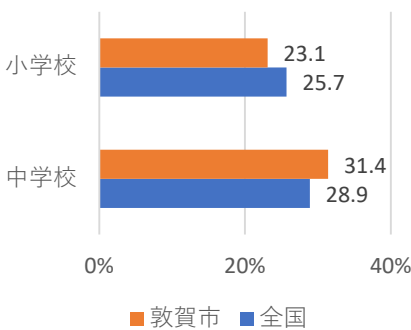


〈毎日同じくらいの時刻に寝ている〉



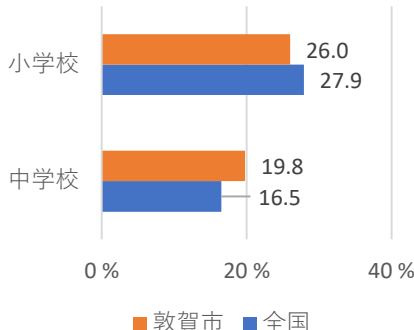
【ゲーム】

〈普段(月～金)、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)の使用時間が1日当たり1時間以下である〉



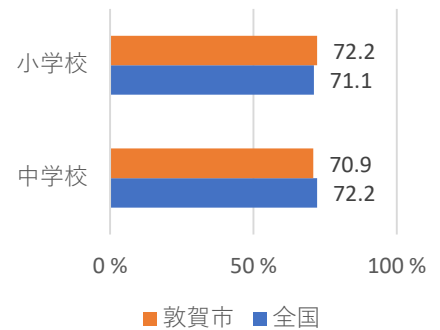
【SNS・動画視聴】

〈普段(月～金)、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴など(学習する時間やゲームをする時間は除く)の使用時間が1日当たり1時間以下である〉



【家の人との約束】

〈携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている〉



生活習慣はすべての土台であり、心身の健康を支えるものです。敦賀の子どもたちの基本的な生活習慣は、以前から高い水準にあり、ご家庭の支えにより、その水準をほぼ保っています。

しかし、経年変化で見ると、「朝食をとること」「同じくらいの時刻に寝ること」の回答割合が年々減少傾向にあります。これらは、ゲームやSNS・動画視聴などの使用時間が影響している可能性も考えられます。

今後も、健やかな体の育成を目指すために、学校では「生活のリズムを整えること」「ネットルールの約束をお家の方と一緒に考え、守ること」等を引き続き指導していきます。ご家庭でもご協力をお願いいたします。